

子どもと一緒に 先生座談会

生活を創り出す保育

谷戸幼稚園の先生は、
日々どんなことを考えながら保育をしているのでしょうか。
各クラスの先生、フリーの先生に聞きました。

常に進化する幼稚園

今日は谷戸幼稚園（以下谷戸）で働いていらっしゃる
先生方に、谷戸の魅力を語っていただきます。
まず、就職されてから何年目かと、なぜここを職場として
選んだのかを教えてください。

ゆい先生—— 6年目です。就職前に、幼稚園を何園か見学しましたが、谷戸の、先生も子ども
もかしこまっていない、あたたかい雰囲気、ここしかなかったです。

なみ先生—— 7年目になります。私も見学をしたのですが、谷戸の前に見た幼稚園が、スケ
ジュールがかなり細かく決まっている園でした。その後に谷戸に来てみたらお
誕生日会の忙しい日で、園長先生も「自由に見てね」と。気さくな方だなと思い
ました（笑）。子どもたちがすごく生き生きしていて、初対面の私に「先生な
の?」って聞いてきてくれて、いいなと思います。

てつや先生—— 僕は9年目になります。谷戸に初めて来たのは学生の時の実習でした。先生
たちの、何かを教え込むのではなく、子どもたちと一緒に生活を創っていか
うという姿勢に魅力を感じました。実習で、「ギターが弾けるなら、コンサートや
たらいいじゃない」と、先生方から色々な面ですごく応援してもらえたのも印
象的でした。

りの先生—— 3年目です。一番最初にここに来たとき、園庭の真ん中に木があることにびく
りました。第二園庭ではちょうど保育参加をやっていて、大人と子どものあの
泥んこのわちゃわちゃを見て、学生のときから木登りのできる木や泥がある園
に行きたいと思っていたので、ここしかなかったです。



出席者

ゆい先生／年少ひよこ 2 組担任
てつや先生／年中きりん組担任
けいこ先生／フリー教諭

りの先生／年中こあら組担任
なみ先生／年長きく組担任
司会・構成／父母の会役員

（2015 年 9 月実施）

けいこ先生—— 谷戸は6年目。その前の園は9年。その前は小学校の事務補助を10年。その
前は自分が卒園した幼稚園に7年。合計32年になります。前の園に勤めてい
る頃、造形の研究会で谷戸の園長先生と知り合いました。その後、園行事の
折に研修させていただいたり、子どもや先生たちのアクティブな感じを見たり、
園長先生との話の中で、ここはきっと常に進化していく幼稚園なのだろうと
直感しました。それは私の理想でした。教員人生の最後はここかな、と思っ
てお願いして入りました。



対話的保育は奥が深い

谷戸の保育は自由保育でも一斉保育でもなく、遊びや生活の中でテーマが生まれてくる対話的保育です。対話的保育は放任ではなく、一人ひとりをよく見て、この子たちの次の活動はこうかな、と準備をしたり、実際の保育中も、子どもに合わせた柔軟な対応が常に求められます。カリキュラムが決まっている保育とは違った難しさがあり、専門性がなくてはできないと思いますが、そのあたりはいかがでしょう。

りの先生—— 最初はもうしたらしいのかわからず、戸惑いました。でもとにかく子どもたちと遊んでいく日々の中で、ごっこ遊びが出てきてそれが盛り上がったり、他のクラスではやっている遊びが入ってきたり、いろいろなことが起こることがわかりました。自分が今子どもたちにこれを体験させたい、と思うこともそこうまく入れられるように心がけています。ただ、自由度が高い分、これでいいのかな、といつも迷っています。

ゆい先生—— こうやりなさい、ああやりなさい、これはだめ、という保育ではないので、いろいろと自分で考えられる分、幅が広いですね。私も、これで合っているのかな、この保育でいいのかなという迷いは常にあります。でもきっと迷わないと、悩まないと、いい保育はできないんだと思う。「今日はきつとこの遊びに子どもたちはのってくるはず!」と意気込んで臨んでも、全然集まらないこともあるし。

なみ先生—— あるある。たった3人とか(笑)。

てつや先生—— 自分がイメージしていた方向とまったく違う展開になることもあるけれど、それも楽しめるくらいでないと。1学期に大きな段ボールをドンとおいて、遊びが広がるかなと思っていたら、切ったり貼ったり、絵を描いたりとはありましたが、2週間くらいで終わりました。でもなんとなくとおいたら、2学期になって「これで遊ぼう!」と男の子が引っ張り出してきて、1学期よりも友だち同士のつながりが深まっているので、たちまち、あれしよ、これしよ、これつけてみたら、とイメージが膨らんで、お化け屋敷作りが始まりました。

けいこ先生—— そうなると大人も面白くなって、こんなのはどう?と他の素材を出したりしてね。子どもの発想でどんどん遊びが広がっていつ。それを見て私たちも、また「明日はこうしようかな」と思ったりしますね。子どもと一緒に活動しながら、どうすればこの子たちがのびのびとその子らしく育っていけるかを常に考えていくから、やりがいがあります。

ゆい先生—— いい保育をしたいという気持ちがあるので、みんな負けず嫌いかも(笑)。あの人のあそこいいなと思ったら、私も頑張ろう、負けたくないぞ、と思います。そうっていいと伸びていけないです。

なみ先生—— 確かに、切磋琢磨していますね。斬新な発想はむしろ先輩から学んだりします。たとえば先日、新人が紙テープを濡らして、おだんごを作っているのを見て、ハッとしました。紙テープはバックのひもにしたりと、紙テープとしてしか使っていなかったもので、濡らす発想はなくて。「まだまだ固いな、私」と思いました。



——そうした先生方に見守られて、
谷戸の子たちも日々自由な発想で遊んでいるんですね。

てつや先生—— ある小学校で、時間が空いたから遊びましょうとなったら、谷戸出身の子たちがその辺にある、塀づくりに使うようなブロックを運んできて、楽しそうに遊び始めたらしい(笑)。

ゆい先生—— なんでも遊びにつなげられる力がついていますよね。特に、年長くらいになると、遊びこめるようになります。気づいたら1時間なんてあっという間にたっていて。

なみ先生—— 一つの遊びにみんなで向かって行って、「じゃあこれがないから僕作るよ」と自然な分担も生まれて。そうやって遊びが成り立っていくのがちょうど2学期後半から3学期くらいです。

ゆい先生—— 一時間半くらいでは足りなくなりますよね。だから自然と一つのことに集中して取り組む力がついていくのかもしれない。

失敗から学ぶ

いつも先生たちのチームワークのよさを感じます。

りの先生—— 経験が浅くて、どうしようどうしようと思ったときに、フリーの先生がふっときてくれたり。へこんでいると、先輩から励ましメールがきたり。いろいろなところでバックアップを感じます。だから安心していろんなことに挑戦できます。

なみ先生—— 私も1,2年目は大変でした。動く前に悩んでしまうタイプなのですが、学年主任やフリーの先生に「とにかく失敗してもいいから、やってみることが大事」と言われました。それで、谷戸は、まず自分でやって自分で気づく、そうやって学んでいくんだなと。失敗しても、そこで一緒に考えてもらえて、先輩には支えられました。だから今は自分もそうでありたいと思います。

ゆい先生—— 1,2年目には新人としての悩みがあって、中堅になるとまた、素晴らしい上の人たちと、どんどん伸びていく下の人たちにはさまれて、焦ったりもします（笑）。

けいこ先生—— だから、みんな勉強していますよね。研修にも積極的に参加するし。それは園長先生がそういう機会をたくさん与えてくださるから。研修でいろんなことを吸収して、自分のものにして、日々の保育に生かすということを、園長自らの姿勢が私たちに伝えてくれているのだと思います。だから職員は、自らの力をつけていく努力をしています。チームワークの元はそこかな。



こどもに成長させてもらっている

どの先生方も、1人ひとりの子どもたちを丁寧に見てくださっていると感じます。

てつや先生—— よく見ていないと、対話的な保育はできないから、というもあるかもしれませんが。でも、考えてみると、そうやって自分のクラスの子どもたち以外の子もよく見ているから、最近この子どうですか、って他の学年やクラスの子のことを聞かれたら「今は〇〇ちゃんと●●ちゃんと一緒におままごとごっこに熱中していますよ」とすぐに答えられるかも。どの先生もそうだと思います。

なみ先生—— 全体を見る目もそうだけれど、経験を積むと、だんだん視野が広がって、1人の子どもをいろんな面から見られるようになってきます。そうすると接し方も変わってきますね。

ゆい先生—— 子どもと接していると、大人では到底かなわない発想や行動力、友だちとの協力などを毎日遊びの中で見せてくれて、その姿から私たち保育者も学ばせてもらっていると感じます。それがこの仕事の一番の醍醐味かもしれません。

けいこ先生—— 自分は、先生ではなくて、子どもと一番近いところにいる大人でいたいと思っています。この人になら自分のことを安心して言える、と思ってもらえるような存在でありたいなと。最近、子どもとの会話が、先生と園児ではなくなってきたような気がします。それはやっぱり、教える立場というより、子どもと一緒に生活しているという意識の方が強いからかな。

てつや先生—— 僕、実習生に全く同じこと言います。自分も、一緒に生活している同じクラスの1人だと思っているって。もちろん大人と子どもの立場はあるので、危険なことや、それはどうかと思うことは言うけれど、一緒に過ごす中で一緒に悩みたいし、発見したい。

見えにくい力こそが大事

未就園児の親御さんにお伝えしたいことは何でしょう。

てつや先生—— ぜひ、「人とつながるのが楽しい」「自分で考えて切り拓いていけるのが楽しい」というところに重きをおいてほしいなと思います。字が書ける、計算ができる、逆上がりができるというのは目に見えてわかりやすいですが、それよりもまず、人と友だちになる力があるとか、友だちと一緒に存分に遊びこめる、一緒に考えられる、困ったならにかためてみるという、そういう力を育てたい。その力こそが、その子の人生を切り拓いていく上で大事ということを保護者の方と共有したいです。

なみ先生—— 言われないとやらない人って、大人にも結構多いですが、大人からの指示待ちをしている子どもにはなってほしくない。今こういう状況だからこうしてみよう、考えて行動できる子になってほしいと思いながら保育をしています。

ゆい先生—— 子どもたちに、人間的に豊かになってほしいと思っています。谷戸は人に対しても、物に対しても、自然に対しても子どもたちは全力で接していく。その中で、いろんなことを思っているんだよ、思ったことを自由に表現しているんだよ、という幼稚園です。あとは一人ひとりを、どの先生も大事にしているところなので、安心して通ってもらえたら嬉しいです。



りの先生—— 小学校は小学校でやるべきことがあります。幼稚園も、この物どころがついてからの2~3年でしかできないことがある。小学校は、学習するという大きな目的があるので、どうしても、あれはだめ、これはだめと言われることがありますが、それを幼稚園でも言われてしまったら、その子はどこで伸びるんだろうと思います。自分で生活していく力がこの2年間、3年間で少しずつ蓄積していったら、その先に小学校がある。目に見えることだけではなく、もっと小さいことでも、子どもができたことに共感したいし感動したいという気持ちで保育をしています。

けいこ先生—— 言葉だけではなかなか伝えきれないので、ぜひ一度、園に遊びに来て、この雰囲気を感じてほしいと思っています。それは、私自身が、ここに来て、この素敵な空気を感じたひとりだから言えることなのです。

